

佐賀県研究成果情報（作成 2021年3月）

- [情報名] 薬用作物トウキの定植適期は抽苔率が低くかつ収量が多い4月20日前後である
- [要約] 薬用作物トウキは、定植日が早いほど抽苔率が高くなり品質が落ちる。抽苔率を低く抑え、収量が減収しない4月20日前後定植が適する。
- [キーワード] トウキ、定植時期
- [担当] 上場営農センター・研究部・畑作・野菜研究担当
- [連絡先] 0955-82-1930・uwabaeinousenta@pref.saga.lg.jp
- [分類] 技術者参考
- [部会名] 上場営農専門部会
- [専門] 栽培
- [背景・ねらい]

薬用作物のトウキは国産漢方薬の原料としての需要が高まっており、栽培する農家の所得確保のためには規模拡大が可能となる機械化体系の確立および安定栽培のための栽培管理技術の開発が必須である。これまで、栽培管理技術として育苗方法および適期播種時期について明らかにした（2018年度佐賀県成果情報）。ここでは、適期定植時期について明らかにする。

[成果の内容]

1. 定植時の苗質は、定植日が遅いほど苗重が重く、定植後の抽苔を含む欠株率が低くなる（表1、図1）。
2. 4月定植は、3月および5月定植と比較して収量が多くなる（表1）。
3. トウキの定植適期は、抽苔のリスクが低く、かつ収量が減収しない4月20日前後が適する（表1、図1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 供試した種子は、上場営農センターで自家採取したものである。なお、自家採取する場合は、晩抽性を選抜する。
2. 夏季の高温・乾燥により欠株率が高くなるので、随時灌水を行う。
3. 白黒ダブルマルチに半自動移植機（PVH180JWL、I社）を利用して定植した。

[具体的なデータ]

表1 定植時期の違いによる苗質および収量

年度	定植日	苗質				収量			
		草丈 (cm)	葉数 (枚)	根長 (cm)	全重(FW) (g/株)	欠株率 (%)	地下部重(DW) (g/株)	収量(DW) (kg/10a)	
2018	3月29日	2.2	1.0	6.3	0.03	81.3	13.7	18.2	b
	4月5日	4.2	2.0	11.2	0.24	64.6	38.6	77.1	a
	4月12日	4.9	2.3	11.0	0.28	64.6	24.9	46.9	ab
2019	4月4日	4.4	2.0	10.5	0.26	11.7	120.7	502.9	a
	4月12日	7.3	2.7	12.2	0.73	11.7	100.9	420.3	a
	4月18日	11.0	3.0	14.1	0.81	6.7	98.2	431.0	a
	4月22日	13.7	2.8	14.4	0.97	6.7	94.5	413.0	a
	5月2日	16.0	3.0	14.1	-	1.7	71.1	329.0	b

注1) 試験規模：10株×3反復

注2) 播種日：2018年2月16日、2019年2月14日

注3) 収穫日：2018年12月12～13日、2019年12月12～13日

注4) 育苗時の容器は、深さ7.5cmのペーパーポットにアシスト培土を使用

注5) 収量は10a当たりの株数を2018年度は5,000株、2019年度は4,705株とし、欠株率(抽苔を含む)を換算し算出

注6) 収量(DW)の異なるアルファベット間には5%水準で有意差あり(Tukeyの多重検定)

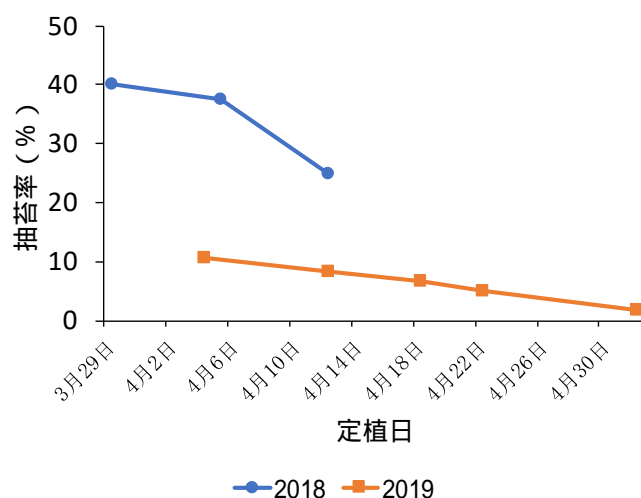


図1 定植時期の違いによる抽苔率

注1) 試験規模：10株×3反復

注2) 播種日：2018年2月16日、2019年2月14日

注3) 育苗時の容器は、深さ7.5cmのペーパーポットにアシスト培土を使用

[その他]

研究課題名：薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発

予算区分：国庫

研究期間：2016～2020年度

研究担当者：伊東寛史、中島正明、原田克哉

発表論文等：なし